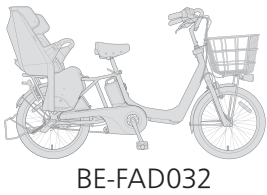


組立説明書
電動アシスト自転車

品番 BE-FAD032
BE-FAD632

※特注車含む



- 組み立てをされる方へ
- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
 - 自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
 - 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
 - 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
 - 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
 - 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
 - メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。
 - 説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車（部品の一部が異なる機種）も組み立て方はすべて共通です。

お願い

組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店 / 代理店にて斡旋しております。



お知らせ

- 本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。
- お客様の車両と仕様が異なる部品の組み付け・調整方法についてはお読み飛ばしてください。

標準締付トルク一覧表		
M3	(0.8~1.3)N・m	{(8~13)kgf・cm}
M5	(3~5.0)N・m	{(30~50)kgf・cm}
M6	(6.5~10)N・m	{(65~100)kgf・cm}
ハブ軸BC5/16	(18~24)N・m	{(180~240)kgf・cm}
ハブ軸BC3/8	(35~43)N・m	{(350~430)kgf・cm}

※本文中に締付トルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

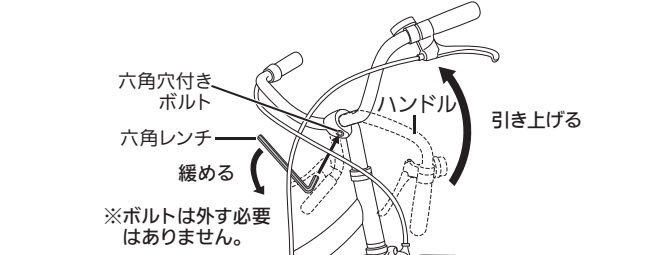
■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

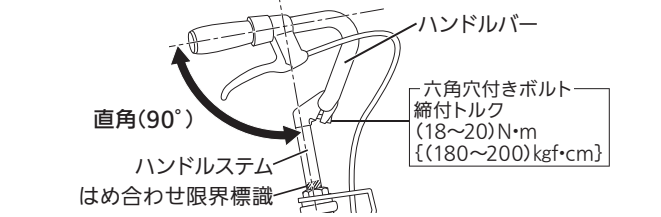
■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。	
	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

■ハンドルバーの調整と固定

①六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを緩め、ハンドルバーを引き上げます。



②ハンドルバーとハンドルステムの角度がほぼ直角になるように調整し、六角穴付きボルトを締め付けます。



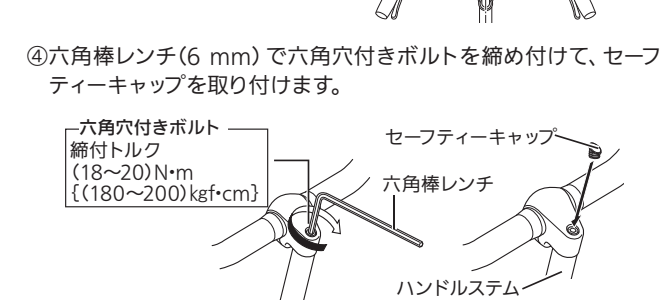
警告

■ハンドルステムは、はめ合わせ限界標識以上引き上げない

（ハンドルステムの折れにより、転倒によるけがのおそれ）

禁止

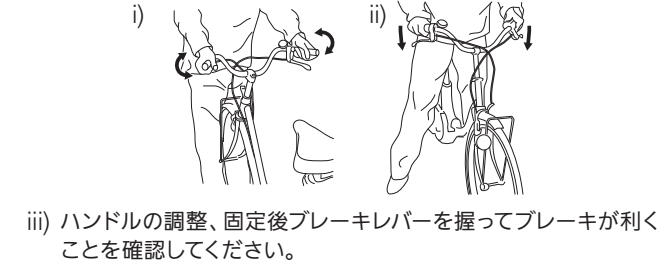
③ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整します。また、ブレーキケーブルが図のような状態になっていることを確認してください。



○締め付け後、以下の i)、ii) で固定が十分か確認します。

i) 前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して 150 N {15 kg f}、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。

ii) 自転車にまたがり、ハンドルバー握り部を持ち、内側に絞り込むように体重をかけ左右共 220 N {22 kg f}、ハンドルバーが回転しないことを確認してください。



警告

■ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない

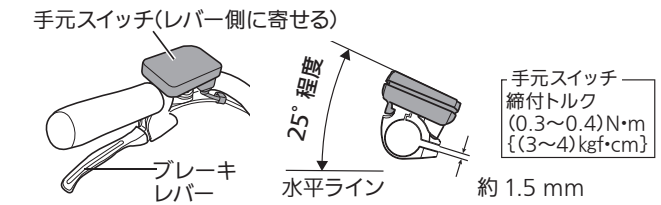
（固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ）

禁止

■手元スイッチの角度調整

ご注意

- 手元スイッチの取り付けねじは締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。



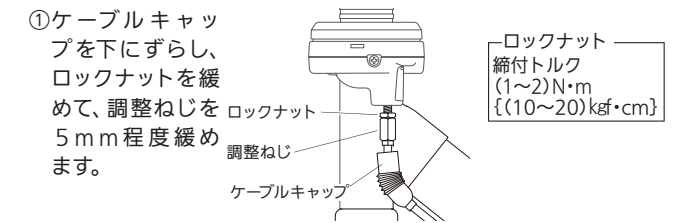
■スタピタの調整・確認

警告

■パンク修理やタイヤ・車輪交換などでスタンドのスタピタケーブルを外したときは、必ずケーブルの調整状態を確認する

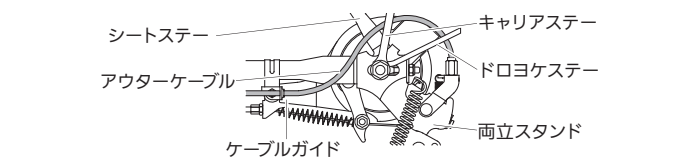
（走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ）

必ず守る

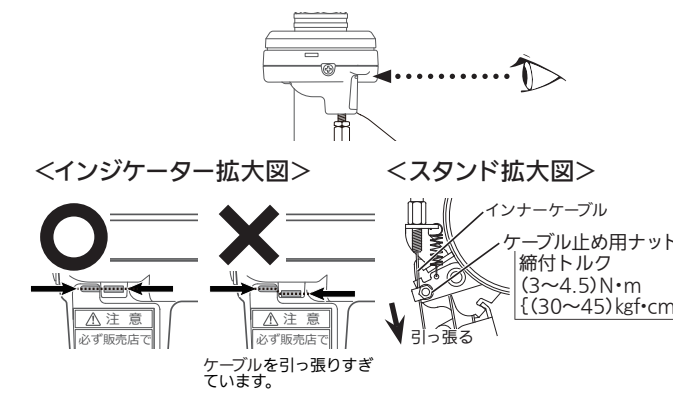


②スタンドを立てた状態にします。

③アウターケーブルをケーブルガイドに通します。アウターケーブルはシートステーの外側、キャリアステアードロヨケステーの内側を通します。



④インジケータを正面(車体後方・サドル側)から見て黄色い調整ラインが一直線になるように、スタンド側のインナーケーブルを引っ張り、ケーブル止め用ナットを締め付けて固定します。ケーブル止め用ナットを締め付け後、もう一度調整ラインが一直線になっているか確認してください。



警告

■スタピタケーブルを引っ張りすぎない

（走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ）

⇒ 必ずインジケータの黄色い調整ラインが一直線になっているか確認してください。

禁止

⑤スタンドを数回作動してハンドルのロック及び解除がスムーズに作動するか確認してください。スタンドを跳ね上げた状態でもスタピタが解除されない場合はインナーケーブルの引っ張りすぎです。スタンドを立てた状態にして、調整ねじを黒矢印(ケーブルが緩む)の方向に回して④の黄色ラインが一直線になるように調整してください。

警告

■ロックナットは確実に締め付ける

（調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ）

■インナーケーブルの先端には、必ずインナーケーブルキャップを組み付ける

（組み付けないとけがのおそれ）

必ず守る

⑥調整ねじで調整しきれない場合はインナーケーブルを組み直してください。調整後は必ずロックナットを締め付けてください。

⑦ケーブルキャップを調整ねじに取り付けてください。

⑧スタンド側の余分なインナーケーブルを切断し、インナーケーブルキャップをカシメてください。

■ブレーキの調整



警告



必ず守る

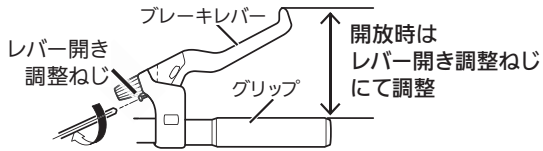
●ロックナットは確実に締め付ける

(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

●ブレーキレバーの開き調整

ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。

●ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。

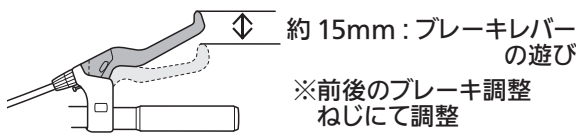


お知らせ

●右レバーと左レバーはレバー開き調整ねじの場所が異なります。

●ブレーキレバーの引きしろ調整

ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをケーブル調整ねじで調整する。

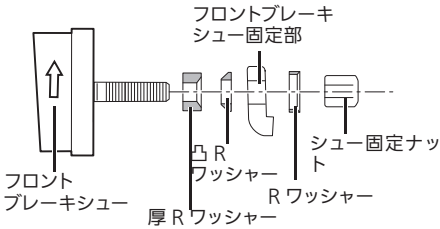


お願い

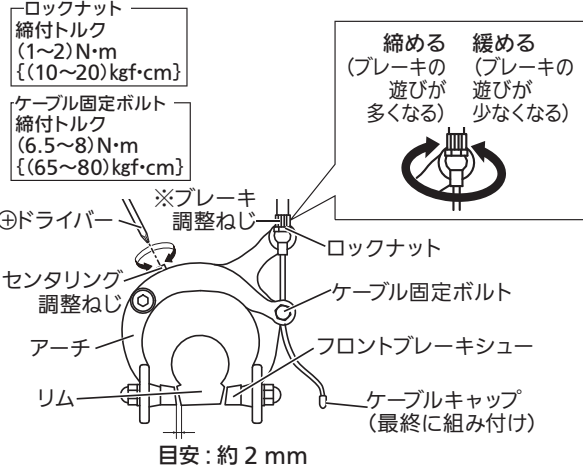
- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

●フロントキャリパーブレーキの調整

○このモデルのブレーキの仕様は、右図のようになっています。



- ①アーチを握った状態で、ケーブルをケーブル固定ボルトに固定する。
- ②ロックナットを緩める。
- ③ブレーキ調整ねじを回す。
- ④センタリング調整ねじで、リムとフロントブレーキシューの隙間が左右均等になるように調整する。
- ⑤走行してブレーキの利きを確認する。
- ⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。



注意



必ず守る

●インナーケーブルの先端には、必ずインナーケーブルキャップを組み付ける

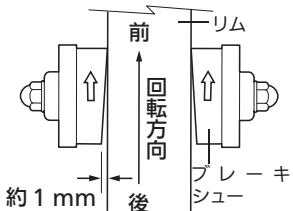
(組み付けないとけがのおそれ)

●ブレーキ〈前・後〉のブレーキケーブル末端処理

○安全のためケーブル末端にはケーブルキャップをカシメてください。

●フロントブレーキシューについて

○ブレーキシューに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキシューがテーパー状になっており、後側に約 1 mm の隙間ができ、異音防止の効果があります。



警告



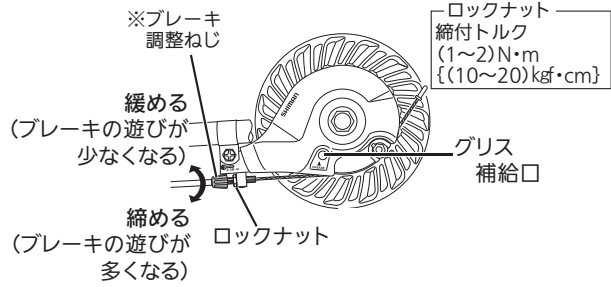
必ず守る

●ローラーブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス (NBP002) を使用する

(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ) ⇒補給する目安は 1 回約 5 g です。

●リアブレーキの調整

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。
- ②ブレーキ調整ねじを回す。
- ③走行してブレーキの利きを確認する。
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

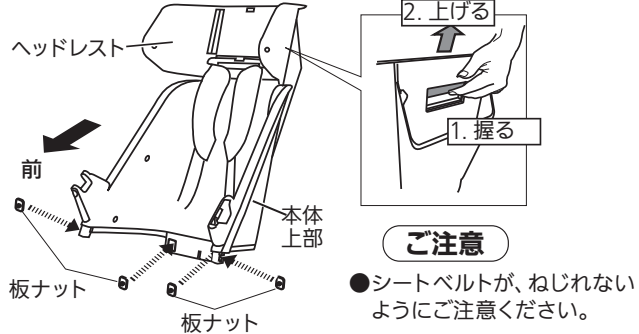


お願い

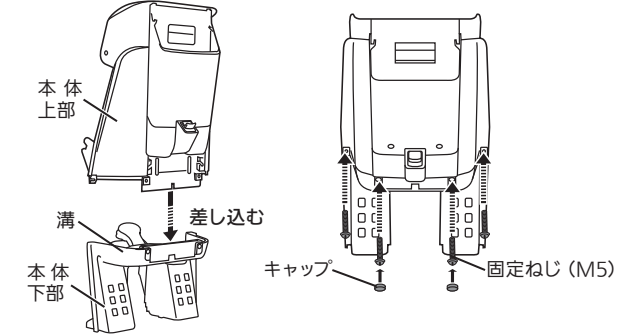
- 確実な制動力を得るために、通常約 1~2 年に 1 回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけたときに、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりした場合ローラーブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

■チャイルドシート本体の組み立て方

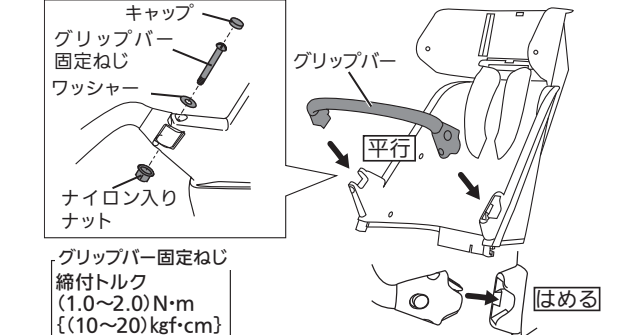
- ①チャイルドシートの上部のヘッドレストを引き上げ、所定の位置に板ナットを差し込みます。



- ②本体の上部を、本体の下部の溝に差し込み、固定ねじでしっかりと固定し、キャップを押し込みます。



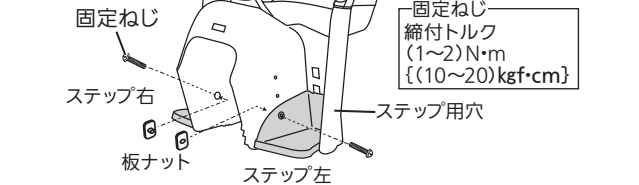
- ③チャイルドシート本体にグリップバーを平行に挿入し、組み付けます。



- ④ヘッドレストにライナーを十分押し付けながら、ライナー取付ねじで取り付けます。※押し付けが不十分な場合、少し浮いた状態になり外れやすくなります。

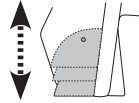


- ⑤左右ステップを本体のステップ用穴に差し込んで、突き当たるまで下方へスライドさせ、固定ねじで固定します。

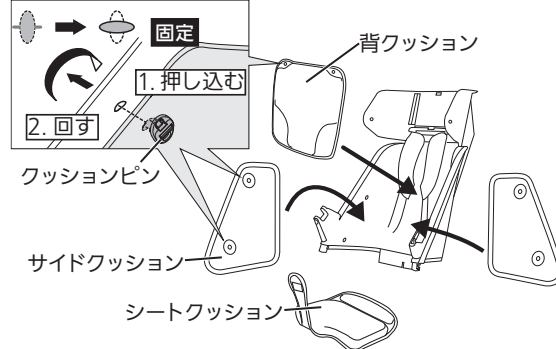


ご注意

- 差し込み部分が確実にはまっていることを確認してください。
- ステップの高さは 3 段階に選択できます。必ず左右のステップが同じ高さになるようにしてください。



- ⑥各クッションを取り付けます。クッションピンのツメをチャイルドシートに押し込みながら 90° 回して固定します。



■ペダルの組み付け



注意



必ず守る

●ヒゲ状のバリを取り除く

(バリによるけがのおそれ)

⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

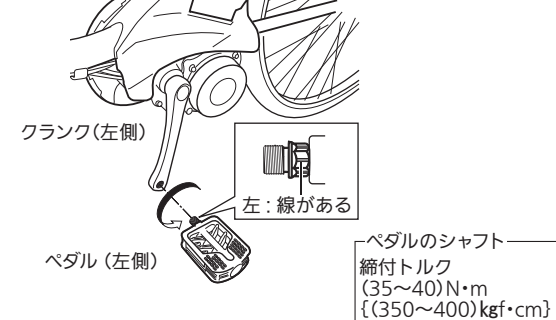


※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

- ①クランク (右側) にペダル (R) のシャフトを時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



- ②クランク (左側) にペダル (L) のシャフトを反時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



※走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。

■未組み付け部品明細表

チェック	部品名	個数
	ハンドルバー・ハンドルステム	1 セット
	セーフティーキャップ (ハンドルステム用)	1
	チャイルドシート (本体) 組立セット	1 セット
	手元スイッチ (位置調整が必要)	1
	ペダル	1 セット

上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合がありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

お願い

- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- お客様に商品をお渡しする際には、バッテリーを満充電にしてお渡しく下さい。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町 13 番 13 号

© Panasonic Cycle Technology Co., Ltd. 2024

NYK2348 S1224-0